

平成18年度農業総合センター 研究第三者評価会議 評価結果

平成18年12月15日農業総合センター研究第三者評価会議が当センターで開催されました。

これは、研究活動の公正かつ適切な評価により、効果的な研究・技術開発を推進する目的で、18年度から導入したものです。その結果の概要をお知らせします。

評価会議は農業に関する有識者・専門家、農業者・消費者の代表等、知事から委嘱を受けた5名の評価委員をもって構成しています。

～評価対象課題について～

- (1) 事前評価課題 次年度新規に実施予定の研究課題 (22 課題)。
 - (2) 中間評価課題 現在実施している研究課題 (27 課題)。
 - (3) 事後評価課題 普及に移した研究課題の内、概ね3年を経過した課題 (20 課題)。
- これらの課題の内、第三者評価会議での対象課題は、センター研究監理委員会によって選出された次の6課題を対象としました。

～評価委員による各課題の総合評価と主なコメント～

1. 全体を通じての講評

- ・ 県の機関として農業・農村の現状や社会の要請を踏まえた研究がなされている。
- ・ 他共同研究機関と連携を行い、効果的・効率的に研究が進められている。
- ・ 事前評価の2課題は、今後課題の絞り込みと重点化が必要。
- ・ 中間評価、事後評価の4課題はそれぞれ成果をあげている。
- ・ 実用化を急ぐ事も重要だが、研究結果を元に事象のメカニズムを解明するような基礎的な研究にも重点をおいていただきたい。
- ・ 生産者の立場に立って、生産コストの削減、省力化に寄与する研究を進めていただきたい。

2. 各研究課題の評価

評価 3：達成（非常によい、大いにある）、2：ほぼ達成（よい、ある）、1：達成不十分（よくない、乏しい）（5名の評価委員の平均値で記載しています。）

①事前評価課題

(1) 農薬散布におけるドリフトから農作物を守る技術の開発

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究の必要性・ニーズ（生産者・実需者・消費者・行政課題）	3	残留農薬に対する消費者の関心は高く、ポジティブリスト制度の導入に伴い生産者ニーズも高い。
(2) 研究方法の妥当性	2	ドリフトから守る方法としては妥当であるが、遮蔽ネットと組み合わせることのできるプラスαの技術開発にも期待。
(3) 研究推進体制	2	研究機関、民間企業との連携により実用的な成果が期待できる。
(4) 研究の独創性・新規性	2	ネット展張自体は新規性に乏しいが、低コストで設置が容易、丈夫な遮蔽柵の開発は必要。
(5) 学術的寄与・発展の見込み	2	ネット展張自体は新規性に乏しく、学術的寄与は低い。
総合評価（課題の妥当性）	2	ポジティブリスト制度の導入に伴い、消費者・生産者双方のニーズが高く、当を得た課題。低コストで生産者にとって導入が容易な技術開発に期待する。ネット展張による防風、防虫などの副次的な効果も検証できるとよい。

(2) 近畿アーバンエリアへの高機能性輪作による安全野菜供給システムの開発

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究の必要性・ニーズ（生産者・実需者・消費者・行政課題）	3	消費者の理解を得て、都市近郊農業を継続していくためには重要な課題。
(2) 研究方法の妥当性	2	各共同研究機関の研究分担をより明確にし、課題を整理するとよい。
(3) 研究推進体制	2	立地条件が共通である近畿府県と連携し、得意分野を活かしており、効率的・効果的な成果が期待できる。
(4) 研究の独創性・新規性	2	輪作という慣行技術と、これまでの個別の研究成果を組み合わせるものであり新規性には乏しい。
(5) 学術的寄与・発展の見込み	2	輪作による病害虫防除のメカニズムが解明できれば学術的寄与は大きい。
総合評価（課題の妥当性）	3	都市近郊地域である本県には必要な生産技術である。昔から行われてきた輪作を現代・将来の生産にどのように活用できるのか、手間と時間がかかると思うが、目標を明確にして取り組んでいただきたい。

② 中間評価課題

(3) オウトウの早期多収・低樹高栽培技術および加温栽培技術の確立

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究計画の進捗状況	3	本県の条件に適応した品種の選定、技術開発が着実に進んでいる。今後、省力化や高品質生産技術の開発が必要。
(2) 研究成果の波及見込み（生産者・実需者・消費者・行政課題）	2	オウトウは高付加価値果実であり、山形よりも糖度が高く、早期出荷できる点は生産者にメリットがある。観光農園への導入も期待できる。
(3) 学術的寄与・発展の見込み	2	学術的寄与は低いが、安定生産技術が確立できればよい。
総合評価（目標達成度）	3	果樹産地の補完作物としての導入を目指すのか、観光農園や小規模な直売品目としての導入を目指すのか、成果の普及方向を絞る必要がある。将来特産品となる可能性も期待される。

(4) 茶樹への点滴施肥技術の開発

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究計画の進捗状況	2	試験圃場が限られており結果の信頼性が低い。より多くの茶園での実証を行うべきである。
(2) 研究成果の波及見込み（生産者・実需者・消費者・行政課題）	2	低コスト化を図ることで波及が期待できる。環境負荷低減以外に、省力化や食味の向上等、導入によるメリットが示せると良い。
(3) 学術的寄与・発展の見込み	2	環境負荷低減への寄与は高い。
総合評価（目標達成度）	2	試験圃場の環境、地形・地質等の条件をあわせて調査する必要がある。点滴施肥装置の低コスト化と、生産者に技術導入の必要性・メリットを示すことができるような成果を期待。

③事後評価課題

(5)

1) 電照操作を主体とした二輪ギクの段咲き性確保技術の開発

2) 穂冷蔵、苗冷蔵による無側枝性ギクの苗萌芽率の向上

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究成果の内容	3	子細な研究データの蓄積があり、問題解決ができています。
(2) 研究成果の波及・実用化の状況（生産者・実需者・消費者・行政課題）	3	実用的な研究が行われている。今後生産現場への定着・拡大に努めて欲しい。
(3) 学術的寄与度・発展度	3	技術的な問題は解明されている。現象のメカニズムを探る研究がもう少し必要である。
(4) 成果の公表、特許・種苗登録の可能性	2	研究成果を広く発表している。今後の育種による品種改良に期待する。
総合評価（目標達成度）	3	新作型の開発は生産者のメリットが大きく、実用化を目的とした試験研究としては達成度が高い。今後の品種改良にも期待する。

(6) 獣害防止対策技術の開発（中山間地域の自立的獣害対策技術の開発）

評価基準	評価	評価委員の主な意見
(1) 研究成果の内容	2	身近な材料を使った防護柵等の開発、集落ぐるみでの環境改善策等、総合的な防止技術の開発は評価できる。
(2) 研究成果の波及・実用化の状況（生産者・実需者・消費者・行政課題）	2	生産者が低コストで防止策を行うことができ、対象地域での普及が行われており評価できる。県内他地域への迅速な波及と更なる問題解決に期待。
(3) 学術的寄与度・発展度	2	今後は立地条件の違いによる防止効果の違いや動物の生態を利用した防止技術の開発に取り組んで欲しい。
(4) 成果の公表、特許・種苗登録の可能性	2	成果の迅速な波及を優先し、試験段階で公表しているため特許取得は困難か。
総合評価（目標達成度）	2	低コストな獣害防止策が確立されているが、動物も馴化し人間との知恵比べとなっている。根気がいるが更なる改良に取り組まれない。